

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2018年11月8日

No.6

会社：年末手当については昨年月数よりも非常に厳しい

組合：臨時作業に応じてきた組合員の苦勞が全く反映されていない！！

— 2018年度 年末手当第4回交渉報告 —

中央本部は、本日10時より年末手当第4回交渉を行い、会社は現時点の考え方について以下のように示しました。

- ① 10月までの運輸収入について、7月期改定計画での対計画がコンテナで△116.0億円、車扱は△0.5億円となり全体で△116.6億円となった。10月期改定で当初計画より△148億円の見直しを行ったが10月だけで△17億円が発生している。
- ② 今後の減収予定で△150億円を見込んでおり、対前年では86.7%・△99.4億円である。10月に基本運賃の改定を行ったがトンキロベースでの数字は伸びてきているので一定の効果は出ている。
- ③ 今年度は自然災害が多く発生し、特に山陽線不通では100日間も列車が止まった。東日本大震災以来の未曾有の大災害である。しかし、貴組合員には不慣れな作業に対応して頂いたことを感謝している。
- ④ 会社は災害発生時における代行手配等のシミュレーションを行い、行政へのインフラ整備について要望を出していく予定である。今後も減収要素が大きいから経常利益の黒字化に向けて不要不急な経費の削減を行っていく。以上のことから、年末手当については現時点では昨年月数よりも非常に厳しいと言わざるを得ない。

**会社の回答を聞いてはらわたが煮えくり返る！
災害による減収は組合員の責任ではない！！**

会社の考え方に対して中央本部は、以下の点について主張しました。

- ① 貨物労組が災害対応に応じてきたものの苦勞に答えるものになっていない。今回の災害は1週間どころか3ヵ月間も続けて、それも無事故で頑張ってきた。不要不急の経費を削減するというが、この間に組合員がやってきたことを蔑ろにして災害だから我慢しろというのであれば到底受け入れられない。
- ② 要員が足りない中で組合員は奮闘している。ある運転職場では月に2日しか年休が出せない要員需給があることを知っているのか。経営陣は職場の実態や雰囲気はどうなっているかを把握しているのか。組合員と経営陣との考え方に乖離が大きいとしか思えない。
- ③ 黒字の時には何と言っていたのか。大きく黒字を出しているときには手当を出さなかった。これで魅力ある会社と言えるのか。期末手当は業績給であるのか生活給であるのかどう認識しているのか。
- ④ 多くの幹部が災害対応への激励に訪れてきたがもっと先にすべきことがあるのではないかと。組合員への激励も大切であるが、この苦勞は年末手当の満額回答によって行うべきである。経営陣は姿勢をただし、回答指定日に誠意ある回答を示すこと。

組合員のみなさん！本日以降、年末手当獲得の闘いは「山場の闘い」に突入しました。中央本部は会社の災害減収による手当抑制姿勢を許さず、年末手当満額獲得に向けて最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

以上

次回交渉（回答指定日）は11月16日（金）です。